



子どもの姿をイメージした授業づくり(導入編)

「あけましておめでとうございます」卯年は、兎の跳躍する姿から、「飛躍」「向上」が連想される年のようである。今年も教職員一人一人が、兎のごとく、一步一步、確実に前に進み飛躍や向上の年になることを願っている。教師の飛躍を期待する言葉に「教師は授業で勝負する」というのがある。そこで、今回は授業の導入場面について考えてみた。

中央教育審議会^①で示された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(略)^②において、個別最適な学びと協働的な学びが、現在、期待される学びの姿である。この答申の中の「3. 2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿」に教師の姿が次のように示されている。「学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている」とある。教師はあくまでも伴走者なのである。ちなみに伴走者とは、競技者のそばについて走る人のことである。まずは、授業において教師は、以前の教育講演会で学んだ^③ごとく、子どもの前に出るのはなく、学びの横にいる存在であることを確認したい。その事を踏まえて、子ども一人一人の学びを最大限に活かす授業づくりには、子どもの学びの姿をイメージすることが大切になるであろう。教師はまず、単元全体を見通し、本時の学習指導案を作成していく。その時、教師がイメージする子どもの姿が、はっきりしていれば、本時の目標に迫りやすくなる。その反対に、イメージがぼやけていたり、先導者として授業を展開したりしても、本時の目標を達成することは難しくなるであろう。子どもの姿のイメージこそが授業づくりの成否を左右すると言っても過言ではない。教師のイメージする力は、最初から身に付いているものではない。それは、日々の研究等の積み重ねにより、確実に高まっていくものと考えられる。まさに答申にあるように教師は、「教職生涯を通じて学び続け」ないといけないことが理解できる。

授業づくりにおいて、教師の喜びは、分かるようになった姿など、子どもの成長が感じられた時であろう。それでは、「子ども一人一人の学びを最大限に引き出す」にはどのようなイメージを持てば良いのだろうか。例えば、障害者マラソンでは、自分のペースで走る競技者の横に伴走者がいる。その事を考えたら、学びを最大限に引き出すには、子どもが学びを自分のペースで進めることではないか。子どもが自ら前のめりになって学びに向かう姿こそ、子ども自身のペースで学びを進めている姿であろう。仮に解がすぐには出なくても、自分のペースで学習に取り組めば、マラソンのごとく、粘り強く解を追究し続けることができるのではないか。そうした姿が表出されるのは、自分事として課題を捉え、自分の力や他者との協働で解を出し、それらの過程を自覚することが大切になる。それらの学びが繰り返されることで、子どもは自分のペースの学び方をデザインすることができるのではないか。

まずは、単元や授業の導入が重要であると思う。子どもにとって、教師が定めた課題では、学びのペースを掴みづらい。単に先導者に引っ張られているだけでは、「子どもの一人一人の学びを最大限に引き出す」ことは難しいであろう。私は導入場面で大切なのは、学習課題の中で子ども達に、違和感のようなものを感じさせることだと思う。我々も生活に直結する事象において、違和感を持ったら、主体的に解決に向けて働きかけたりすると思う。先月、大雨で研究所全体の電源が落ちた事があった。所属全員「何故?」の違和感(問い)を持ち、その解決に向け、みんなが動いた。子どもも同じだと思う。違和感を持って、子どもは、「何故?」の問いを持つ。問いを持てば、主体的な学びへ繋がる。導入の短い時間でも、子どもが学びのペースを掴む動機付けの重要な時間と捉え、導入時の子どもの姿を明確にイメージして、丁寧な授業づくりを行っていききたいものである。

1月 研究所事業予定

16(月)	まなびポケット(保護者向け機能)研修会	オンライン
25(水)	情報教育研修⑤・ICT 情報教育推進部会	オンライン

119期教育研究員

新垣 仁美 研究員(幼児教育)
末吉 理恵 研究員(特別支援教育)
狩俣 高志 研究員(小・道徳科)
宮里 理枝子 研究員(中・道徳科)

23(月)	中間検討会Ⅱ
-------	--------

初任研⑫【特別活動代表授業 12/15(木)】



授業研究会の様子



授業風景

【研修者の感想(抜粋)】

- 初任者同士グループで同じ課題を持って研究を進めることができてよかった。
- 初任者同士のつながりも密になった。他の初任者の先生方の意見を聞くこともできてよかったです。
- 特別活動のグループの研究が、とても参考になるもので勉強になる充実した時間でした。
- 学級活動を司会団が中心に、主体的に行うことができていてとても参考になった。このような活動を行うためにも、綿密な事前準備の必要性を感じることができた。

新刊図書のご案内



書名	著者
教師たちのとっておきの言葉	諸富 祥彦
タブレットでふれあうエンカウンター	大友 秀人
ヤマ場をおさえる学習評価 小学校・中学校	石井 英真
学びのユニバーサルデザインUDLと個別最適な学び	増田 謙太郎

教育研究所の図書室には毎月10冊程度の新刊が入ってきます。図書搬送システムを利用した貸し出しもできます。詳しくは学校図書司書へ。